

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp
谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp



矢本和子さん(81歳)

現在81歳の矢本さんは、柳沢公民館開館以来、25年間陶芸サークルで創作活動に打ち込んでいます。先日、手作り地蔵を公民館にプレゼントしてくださいました。

また三鷹市ソフトテニス連盟や西東京市グラウンドゴルフ協会は、今でも週2〜3回コートで汗を流しています。その腕前は「ねんりんピック」に都の推薦選手として大分まで遠征に行ったほど。テニス以外にもグラウンドゴルフや老人会活動で毎日忙しく、家にいる暇もないのだとか。

現在独身、90歳の遠藤さん。「二世帯住宅だけど、自分のことは全部自分でやります。毎日スーパーで買い物して料理していますよ」

第2弾!

はなまる人生まっしぐら

9月17日の「敬老の日」にちなんで、地域で活躍しているお二人にお話を伺いました。スポーツや芸術に親しみ、外に出てたくさんの人たちとふれ合うことで楽しみを何倍にも増幅させている。そんな印象を受けました。

会の発足にも関わり、「やりたいことをやる環境は自分で作らない」といいます。南町の自宅からひばりが丘のテニスコートまでは自転車通勤と駆けつけます。テニス後は、30歳近く年下の「ママさん」たちと楽しいランチタイム。女性の中で男性一人、コーヒーをおかわりしながら、しばしおしゃべりに花を咲かせます。

「だって、ハズバンド(夫)が「外に出て行け!」って言うんだもの」と思いがけず英語が飛び出し一同大笑い。「でもね、昔から「芸術は長い人生は短い」って言うじゃない。やってもやってもこれでいいということはないのよね」

友達の大切さ
それが続けられるのは、いろいろな人とふれあえるのが楽しいからとおっしゃいます。「いろいろな活動をすれば、友達もたくさんできる。小さい頃から友達って必要だなと思う。女学校の友達とは、今でも付き合っているのよ」と、いつも持ち歩いているという当時の名簿を眺めます。

全国各地で大仕事
定年までは、電気系統の技術者として日本全国を駆け回っていた遠藤さん。大企業と共に、ダムや火力発電所など様々な施設を作ってきました。東京オリピックの聖火台の点火装置の設計にも関わったそうです。



遠藤正樹さん(90歳)

「ブルジョア」でフランス映画へ
東京の下町、深川で育った矢本さん。空襲で焼け出され千葉

元気の秘訣はありますか
座右の銘は「無為自然」。元気の秘訣を伺うと、「元気でいようと意識はしていません。やれることをやるだけ」

生涯青春
これまでに15回ほど参加している「かち歩き大会」では今年

開催以来初の90歳代の参加者として驚かれました。さらにその翌日には、普段通りテニスをしたというからびっくり仰天の体力です。

ムービールーム柳沢
柳沢公民館
当日、上映30分前から受付をします。直接視聴室までお越しください。
上映時間前のお場に協力をお願いします。
50人(先着順です。定員に達した場合、入場をお断りすることがあります。あらかじめご了承ください。)
「座頭市物語」(1962年・日本) 1時間36分
9月12日(水) 14時〜
監督:三隅研次 脚本:犬塚稔
出演:勝新太郎、天知茂、万里昌代 他
「17歳のカルテ」(1999年・アメリカ) 2時間7分
9月28日(金) 19時〜
監督:ジェームズ・マンゴールド
出演:ウィノナ・ライダー、アンジェリーナ・ジョリー 他

ちいさな展示会
羊毛でコースター作り講習会
羊毛にお湯を加えて平らにし、模様入りコースターを作ります。
9月28日(金)10時〜12時
芝久保公民館
定員20人(申込順)
500円(材料費)
持参品:洗濯ネットなど
講師:馬淵永子
申電話:芝久保公民館へ

公民館活用が第一歩
公運審委員 島山昭裕
六十歳の定年退職を迎えて、感傷に浸ることもなく、翌日から、二年間にわたり、全国行脚の毎日でした。西東京市のことを直視したり、関心を持つことがほとんどなく、近隣の公民館にも、敷居が高く立ち寄ることもありませんでした。
初めて訪れたのは、田無・保谷市の合併後の『西東京市の財政はどう変わったのか』の講座でした。膨大な資料をもとに、ポイントになる数字をわかりやすく解説する講師の指摘に、公民館を曲解していたことを反省。損失した分を取り戻すように毎週参加する講座が続き、野外的「アウトドア入門」では、野外活動を通じた参加者と協力関係が築かれ、今でも交流が続いています。「大人の学びを考えると」では地域活動中の諸先輩が実践報告。セカンドステージに取り組み勇氣を持つことができました。
どの講座でも学ぶ出会いはあり、社会教育の深奥を認識します。その中で長年継続している『田無力レッシ』では、多彩な講師が日替わり登壇。講義・体験・討議を繰り返すうちに参加者の潜在能力が芽生え、顕在された表情や行動は自信に満ちており、講座終了後は新しいサークルが立ち上がり、地域デビューを果たす人たちが次々と誕生します。公民館は社会教育の拠点として、いつでも、誰でも受け容れる懐の大きい館です。